



2025.5.15

No.245

編集・発行人 樋口みな子

E-mail: minginga@agate.plala.or.jp

URL: <http://www.minaginga.sakura.ne.jp/index.html>

ゆうちょ銀行から

(記号) 19710 (番号) 02218911

他銀行から

(店番) 978 (口座番号) 0221891

ヒグチミナコ (郵送料年間 2,000 円)

春の花に生きる希望をもらいました

平和を守り、原発再稼働に反対と行動する一人になりたい

北海道は4月、雪が解けて春の草花が一気に咲きました。スプリングエフェメラルのカタクリや、エゾエンゴサク、桜が一気に花開き「さあ、あなたもいつまでも自宅にこもってないで」と呼びかけられているように思いました。近くでは野幌森林公園、さらに足を延ばして旭川の突哨山に行ってきました。40年近く前、旭川に住んでいたころ、男山自然公園が整備されていない頃に、「大雪と石狩の自然を守る会」の仲間が人の手が加えられていない突哨山に連れて行ってくれました。写真は撮ってませんが春の妖精のようなカタクリが全山を埋め尽くしていたのです。蟻がカタクリの蜜を運び咲くまでに8年近くかかることを知った時の驚きが忘れられません。命の神秘をいつも感じます。



(写真・4月28日突哨山のカタクリとエゾエンゴサク)

夫が亡くなって1年5ヶ月。5月12日は夫が生きていたら72歳の誕生日。星が大好きなひとでしたが、植物の観察もして、詳細な植物画も描いていたことを思い出します。フランシスコ教皇が天に召されました。被爆地の広島と長崎に心を寄せ、世界各地を訪れ、核廃絶を訴え続けました。パレスチナ・ガザ地区に何度も訪れ、停戦と人質の解放を願い行動した方です。

私は7～8年前に「ローマ法王になる日まで」を映画館で観て、神父であってもここまで人のために命がけの行動をするのかと心に残りました。上映中の「教皇選挙」が話題になりました。コンクラーベ(教皇選挙)はキリスト教カトリック信徒の教皇を選ぶために世界中の枢機卿がバチカンに集まって投票。総数の3分の2以上の票が必要で、アメリカ人のレオ14世(ロバート・プレボスト)が新教皇に選ばれました。南米ペルーを中心に布教活動をされてきました。フランシスコ教皇がめざした「貧者の教会」と平和を守るために力を尽くすと述べました。レオ14世は布教先のペルーで国籍を取得しているとのこと。移民を守ることは大きな活動の一つだったので、アメリカの移民追い出しに抗議していただきたいです。

5月3日は憲法記念日。デモには参加できませんでしたが、半藤一利さんの「日本国憲法の二〇〇日」を読みました。改めて憲法9条を噛みしめました。

憲法9条1 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。2 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

(写真・突哨山から見た十勝岳連峰)

憲法改正の動きも活発ですが、ウクライナやパレスチナの戦争を見ていると戦争を終結させることがいかに難しいかがわかります。フランシスコ教皇が訴えた言葉「平和の構築には戦争をするよりも勇気がいる。対話にイエスと言ひ、暴力にノーという勇気だ」を噛みしめたい。5月の憲法集会にも、「泊原発を再稼働させるな!北海道に核ごみを持ち込ませるな!北海道大行進」にも参加できませんでした。どうぞ私にも声をかけてください。できるだけ参加して声を上げる一人でありたいと思います。(樋口みな子)



武道館でエリック・クラプトンの LIVE を満喫

はるか
樋口 遼

2004 年海外のオークション 95 万 9500 ドル日本円(約 1 億 300 万円)で落札されたエレキギターその名はブラッキー、クラプトンが長年愛用した、「フェンダーストラトキャスター」が有名になっている。クラプトンは世界の 3 大ギタリストと言われているプレイヤーです。

4 月 24 日に開かれた日本武道館でのコンサートは 108 回目。会場は日本各地、海外からのクラプトンファン 1 万人で埋まりました。1 曲目は「ホワイトルーム」。2 時間で 16 曲をしかも、最後まで休む事なく、演奏し歌い切りました。80 歳なの？ 80 歳とは思えない。姿勢がまっすぐ背すじシャキーン！で「こんな姿に憧れる」って思えました。只者じゃないとまざまざと体感しました。「ワンダフル・トゥナイト」は好きな曲で盛り上がりました。ギターテクニックの素晴らしさよりも、全身全霊、魂を込めて熱唱してたのには感動して泣けました。エレキよりも彼はアコースティックギターの方がいいです。



(写真・武道館前で開演前の筆者と母)

私の初武道館のエリック・クラプトンの LIVE。夢でも見てるような錯覚に落ちました。不思議です。彼のアルコール依存症、高層マンションから転落死した最愛の息子コナー君、ここまで彼に不幸の追い討ちをかけるの？彼の息子コナー君に捧げた楽曲、「Tears in Heaven」この曲が彼の人生を再生させた曲だけあって、歌詞も世界中の人に勇気や感動を与えています。私自身も彼の曲の中で一番好きです。「もし、きみに天国で会えたら僕は強くならなきゃね」この歌詞には、私も亡くなった父の分まで、一生懸命に母と共に生きる。「私が柱になって家族を支えるんだ」という気持ちになります。

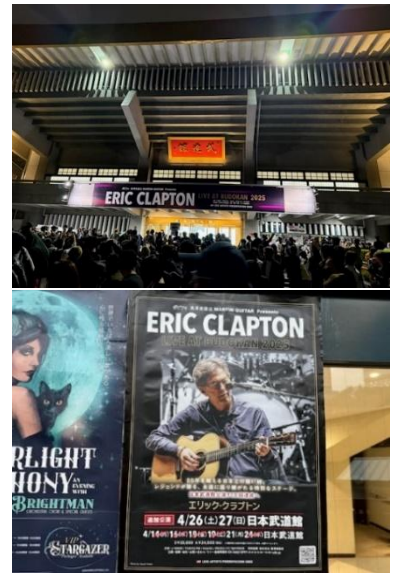


私は歌詞や詩を書くことが好きでいろいろ創作活動を趣味の一環にしてるけど、いつかクラプトンみたくな人を感動させたり勇気づけられる詩やギターを弾けるようになりたいです。そ

ういう気持ちに LIVE を観て強く思いました。私の大好きな B'z の稲葉さんが LIVE の合間に語ったことを覚えてます。それは、自分一人では LIVE という大きなイベントは成立しない。多くのスタッフ、関係者、設営に関わっている人たち、皆さんがいて一緒に LIVE を成功させようという気持ち、一丸となってひとつの目的のために向かう姿勢、一人一人の意識が大事だって言っていました。その想いは、クラプトンも同じだと思います。誰一人欠けたって LIVE は成立しない。武道館での LIVE の観客は年配の方や外国人が多い印象でした。ファンの方の温かい歓声や拍手が印象に残りました。

初めての武道館の夜はなんだか心がほっこりして、温かい気持ちになりました。音楽が世界の垣根を超えて、人種も関係なく、人々の心に平和や愛を歌詞で届ける事の素晴らしさ、母にもそんな想いが伝わってると思えます。

(左下写真・武道館前の公園の満開のツツジ)



4 月 26 日小野有五さん講演

知ってましたか？ 泊原発の審査をやり直すべき 8 つの理由

と概要まとめ

津田孝

原子力規制委員会は北電に泊原発 3 号機に稼働の許可を出しました。問題ありと「行動する市民科学者の会・



北海道」が創立 10 周年を記念して同会の斉藤海三郎会長と北大名誉教授小野有五さんが講演をしました。会場のかでる 2・7 で開かれ、約 100 人が参加しました。紙面の都合で小野さんの話した要旨と意見を津田孝さんがまとめました。

編集者

(写真・講演する小野有五さん)

①泊原発 1～3 号機原子炉は固い岩盤上にあるが、重要敷地の大部分は原発前浜の埋め立て地だ。北電も地震発生時には 1.28m の隆起、5m 沈下を想定するが、敷地全体が盛り上がるはずがなく、液状化・地割れ・不等沈下が起こり、管路や逆流防止弁などが破壊される。極めて危険な状況になる。

②能登半島地震では海底活断層の認定に変動地形学の手法の正しさが実証された。それによると、積丹半島北西沖合には 70 km の海底活断層があり、M7.8 クラスの地震が起こる。だが、北電も原子力規制委員会もそれを認めず、32 km の海底活断層、M7.3 しか想定していない。

③ハカセの会のチェック・提言などによって、規制委員会は基本的にはハカセの会と同様な科学的知見に立っていた。1号機の原子炉建屋近くを走る敷地内断層 F1 を、規制委員会は 2018 年には「活断層であることを否定できない」としていたが、2020 年以降方針転換、活断層と認めない北電の主張を認めるようになった。

④北電は地層の正確な識別ができない。F1 断層は砂丘堆積物の中で上方に消滅している。茶褐色の薄い葉層（ラミナ）が上下に連続していて「不整合」で切られていない。従って活断層だ。北電は総てを海底でたまった地層にしている。海進時に、基盤岩を削って礫層や砂層が上方に堆積し、最上部は海岸砂丘になっている。だから砂丘特有のラミナなどが存在するのだ。

⑤F1 断層は北側の露頭でも礫層を貫いて消滅し、礫層によって切られていない。実際は礫層を突き抜けて上位の海成砂層や海成礫層に入り込み、その中で消滅している活断層だ。北電は F1 断層が上位の C 層に上端を切られていて、礫層年代は 12.5 万年より古いので、12.5 万年前には動いていないと主張している。だが、その証拠に提出された CT 画像では、F1 断層は境界を越えて C 層に入り込んでいる。北電は今もそう繰り返し、規制委員会もそれを容認。

⑥北電は、2号炉直下の F4 断層について、そこから遠く離れた G 地点の Hm 2 段丘堆積物（30 万年前の地層）が、F4 断層の崖の厚い谷埋め堆積物と同一として活断層でないと主張。だが、G 地点を覆うのは最終氷期の周氷河斜面堆積物だ。従って、F4 断層は新規規制基準に照らし、「活断層であることを否定できない」となる。この F4 断層審査は最も重要だが、北電は地層分析結果も公表せず、開削箇所では火山灰調査もしていない。新規規制基準の趣旨を踏みにじっているが、それを追及しない規制委員会の責任も重大だ。

⑦3号炉直近の F11 断層もまともな調査がされていない。泊原発の敷地は 12.5 万年前以降の最終氷期に周氷河作用を受けてなだらかな斜面となり、各年代の火山灰が混ざり合っさって斜面を移動し、礫も破碎され角礫となっている。北電は G 地点について、下部は Hm 2 段丘堆積物、上部は斜面堆積物という。だが、総て周氷河作用を受けた斜面堆積物のように見える。北電の示す模式図は、Hm 2 段丘堆積物の上に斜面堆積物が載っているように描かれていない空想的な図だ。

⑧北電の主張する「岩内層」は 12.5 万年、20 万年前、33 万年前の 3 回の海進堆積物だ。岩内平野に単一の「岩内層」は存在しない。だが、北電は岩内平野の大部分の砂層を「岩内層」と一括して前期～中期更新世と古く考えている。北電には地形学の専門家がおらず、小野や斉藤（海三郎）の、学会で承認された学術論文をまともに理解できていない。泊原発を動かす当事者能力に欠けている。規制委員会はこれを黙認せず、再審査を行うべきである。

なお、以下は講演の内容ではないが、規制委員会の審査では、原発構内の港で核燃料輸送船が津波に襲われた場合、構内の港に停泊中の輸送船が津波で漂流して、新たに建設した防潮堤などを破壊する可能性が指摘された。北電はそれ避けるために急遽新港建設とそのため道路建設などを打ち出した。投資額は最大約 500 億円、完成は 30 年代前半を見込むという（2024 年 7 月 30 日『北海道新聞』）。だが、それは勿論新規規制基準審査の対象外であるが、住民・道民の安全に対して極めて大きな穴が空くと言わざるを得ない。

（脱原発・自然エネルギーをすすめる苫小牧の会事務局長）

お薦め本 「生きるとは」「いのちとは」という

普遍的なテーマを掘り下げた



わたしたちはどう生きるのか—
JR 福知山線脱線事故から 20 年

木村奈緒 小椋聡 福田裕子 只野
哲也 共著 コトノ出版舎 1,980 円

JR 福知山線で脱線事故が発生したのは 20 年前の 2005 年 4 月 25 日。本書は福知山線の事故の当事者・関係者でも遺族でもない全くの第三者である一人の女性が、人々の記憶に残る大惨事を他人事としてではなく受け止めたいと思い立ったところから誕生した。実際に事故に遭遇した乗客、事故取材したジャーナリストなどの寄稿や公開対談などが収録されている。また大川小学校の生存者も寄稿し、対談にも参加している。事故や災害に遭遇した人々がその後どのように生きたのか、またそれを報道したジャーナリストは以後どのように関わり続けたのかが綱目のように綴られている。

本書の主編著者木村奈緒氏は大学でジャーナリズムを学び、現在はフリーランスの活動をしている。氏は 2014 年に NHK で放映された JR 福知山線事故を振り返るドキュメンタリーの中で紹介されていた一枚の絵に触発され、独自の活動を開始した。その絵は乗客の一人が事故から 3 年後に描いた事故直後の現場の絵であった。その絵を東京の人々にも見てもらいたいという思いに突き動かされ、粘り強く様々な調整を重ねて 2015 年 4 月に東京・駒込で「わたしたちの JR 福知山線脱線事故—事故から 10 年展」の開催を実現させた。それからさらに年月を経て 2024 年 11 月 3 日、講演会&公開対談「わたしたちはどう生きるのか—JR 福知山線脱線事故から 20 年」が日比谷で開催された。本書はその講演、対談から編まれた記録である。

内容で特に印象に残るのは二人の乗客の寄稿である。事故の瞬間の生々しく鮮明な記憶、事故の後にのしかかってきた様々な葛藤などが胸に響く重みで伝わってくる。新聞記事などで事故の内容の概略は知っていたつもりであったが、現実に乗客として事故に遭遇し、負傷し、周囲を多くの死者に囲まれるという状況を体験された方の記録に接し、わたしたちの理解・記憶というものをもう一度見直



さなければならぬと突き付けられた。それは展示会、講演会、そして本書が繰り返して問いかけている「わたしたち」という問題であろう。そして問いかけは20年前のJR福知山線の鉄道事故だけではなく、その後の福島原発事故、東北各地の津波災害、能登の地震などの事故・災害。さらには沖縄で続いている様々な不合理などなどについて、「わたしたち」は他人事として意識の周辺に置いてはいないかという問いかけにつながる。その意味で本書は、関係者ではない全くの第三者が、ある事柄に対して他人事として向かい合うことを拒否した記録である。通常は事故・災害などを含む様々な出来事は当事者と取材者によって語られ、伝えられる。けれども自らの思いを抱く第三者が取り組むことで開かれる新たな局面があり得る。

「わたしたちはどう生きるのか」。今の世の中を生きる私たちは様々な生起し、進行する事柄に対し、誰もが主体として向かい合うことができるのではないか。

それは身の回りの諸事を他人事として受け止めたりあるいは傍観者として距離を置いたりしない姿勢である。自らが帰属する地域の選挙に対してすら傍観者的な態度に止まる有権者が増加している。そんな世情に本書は一石を投じる。

本書の帯は「困難な時代を生きるすべての人に」「それでも生きることは素晴らしい」と語りかけている。(石川旺)

目に浮かぶような「敗戦後史」を

憤りの目で伝える

日本国憲法の二〇〇日

半藤一利著 2024年
角川新書 1,496円

敗戦の日から憲法改正草案要綱で「主権在民・天皇象徴・戦争放棄」が決定するまでの激動の203日間を当時の作家の日記や、小学生の手紙から声を拾い上げました。

半藤さんは歴史探偵として知られますが終戦を15歳で迎え、その時の視点で語っています。その前に東京大空襲で九死に一生を得ています。その焼け跡で「絶対」という言葉は使わないと決意したと書いています。その後、新潟県長岡で日本の敗戦を迎えました。

著者が感じたことを随所に挟みながら、8月から翌年3月までの200日間を単なる歴史だけではなく、当時の日本の少年がどのような敗戦とその後の日本社会を醒めた目で見ていたのかくっきり分かる好著です。戦後の日本の状況がまるで目に浮かぶような「敗戦後史」で憲法の成立過程や占領下の巷の様子を描いています。

マッカーサー・天皇会談が実現した背景なども興味深い記述でした。生き抜くために、雑草を食み、想像も及ばない飢餓を乗り越えた祖父母世代。私の祖父母は北海道日高に入植した開拓農民でした。自給自足で何とか食べることはできましたが、その長女である母は女学校卒

業後、地元の農協に勤めていた時、郵便局に預けていた貯金が差し止めになったという話を聞いたことがありました。汗水たらして貯めたお金は無くなったそうです。私の父も通信兵として南方に出兵。マラリアにかかって、途中で福島県に帰ってきましたが、早くに両親を亡くし、当時の旧制中学で教員をしていた長兄夫婦にいつまでも世話になるわけにもいかず、誰一人として知り合いのいない北海道に渡りました。道庁前の長蛇の列に並び、国家公務員の資格を取りました。最初の赴任地が日高の山奥。母とはそこで出会ったようです。大変な時代を生き抜いたことを想像しました。

半藤さんのペンの力にうなりました。その頃の暮らしが見えるようで、私の家族の歴史も振り返ることができました。東京では、米兵に性を売って生活を支えた女性たちの姿を記しています。

大学生だった山田風太郎の日記には「新憲法制定さる。戦争は永遠に放棄。痴人のたわごと」とあります。5月3日は憲法記念日。ウクライナで、パレスチナで、ミャンマーで、戦火が止みません。

この本を読んで戦争になったらどんな世の中になるかを想像することができました。かつての日本の混乱した状況がウクライナやパレスチナの市民の今と重なります。他国の戦争がとても他人事には思えなかったです。(樋口みな子)

人と知のネットワークを生み出す町

すごい長崎

日本を創った「辺境」の秘密

下妻みどり著 新潮社 1,980円

長崎といえば何を思い浮かべるでしょうか。私はまず原爆が投下されたことと、隠れキリシタンの長い歴史や、海外とのつながりが深く異国情緒が豊かなことです。

長崎に50年暮らす下妻さんは、文献などを基に歴史が地層のように積み重なってきた地を巡り、それぞれの時代に生きた人々の目線やスタンスを落とし込んだと明かします。目次は第一講「長崎誕生」に始まり、最終の第六講「傷を恵みに変える長崎」まで。キリスト教布教や禁教、海外貿易や開国、近代化、原爆などについて取り上げており、そのまま長崎通史の年表になります。

日本の西端、アジア東端。世界と日本をつないできた縁側のような“はじっこ”の町は、とてつもなく奥が深かった。実は忠臣蔵の元祖？ 踏み絵と「くんち」の意外な関係とは？ 知られざる「日本初」の数々。その長崎の特異な歴史、風土、文化の成り立ちが明解にまとめられ、書かれています。そして著者は「長崎の町には日本を創り、動かしてきた歴史と秘密がいくつも眠っている。ここで起きたこと、人々が経験したことは、いまの私たちの現在と未来をも揺さぶり、時に勇気づけてくれる」と書いています。



日本国憲法の
二〇〇日
半藤一利

角川新書

下妻さんは「悲しみや痛み、傷を乗り越えてきた歴史を通じて、人間の持っている力を感じることができる。傷を恵みに変えるとは簡単なことではないが、長崎だからこそ切り開くことができる希望や未来、担える役割がある。(日本被団協の)ノーベル平和賞もその一端を表している。今や未来を考えていくための本として読んでもらえたら」と話します。

長崎の昔の地形をみれば「長い岬」、距離は約1km。これまで意識したことがなかったので、次回、本書を片手に歩いてみたい。

ここには遠い海の向こうからあらゆるものがやってきた。ここに港が開かれたのは戦国期、ポルトガル船が平戸に代わる港を探していた結果だった。徳川の世、厳しい弾圧により切支丹は転ぶか潜るかを余儀なくされ、長崎はオランダ人と唐人が来るように。

「鎖国」の時代、長崎は世界に開かれた窓、新しいものは常にここから日本に入っていた。明治以降は炭鉱と三菱造船所の街に。街は原爆で跡形もなくなったのはあまりにもむごい。

「土地の移り変わり」「暮らしさまざま」「キリシタン小史」「祭りを読みとく」などテーマ別に読むこともできます。なかでも考えさせられるのはこの土地に象徴される日本人の主体性の問題だ。本書を読むと長崎は街の起こりから終始外圧や中央政治の強い影響下に、つまり主体的ではなく受身的に形作られてきたことが分かる。有名なおくんちすら住民の発意ではなく為政者の強制によるものだったとは知りませんでした。(樋口みな子)

さまざまな視点からみるべきドラマを紹介

あらがうドラマ 「わたし」とつながる物語

西森路代著 303BOOKS 1,870 円

「逃げるは恥だが役に立つ」「恋せぬふたり」「フェンス」「宙わたる教室」「虎に翼」など話題になったテレビドラマ23作品を西森さんの観点から紹介しています。

本書は大きく分けて6つの現実に向かう。「組織と労働」「恋愛の現在地」「生殖」「性加害」「たたみゆく暮らし」「出会いと分岐点」。どのテーマも私たちの日常から切り離すことはできません。著者が生きてきた道のりの中にも、これらの問題が交差する瞬間があったと書きます。分断が加速する現代において、複雑な問題を一刀両断するのではなく多方面から真摯に向き合う著者の姿勢は、静かだからこそ胸に迫ります。



私もすべてのドラマを観たわけではありません。観たドラマから読み始めてはいかがでしょうか。

『虎に翼』が広く愛されたことが、日本ドラマの魅力を伝える本づくりの始まりだと語っています。私も朝一番に楽しみに観ました。『虎に翼』でとくに感銘を受けたのは、劇中で描写された

問題の多様さ。「舞台となる明律大学の男子学生たちの振る舞いや、女性が学業や結婚・出産などで直面する社会的な困難、それに在日コリアンや性的少数者の存在についても描くなど、本当にさまざまなテーマが、視聴者に届きやすい形で盛り込まれていた」と書いています。『虎に翼』を書いた脚本家であり小説家でもある吉田恵里香さんとの対談で、前例がない企画は一般的に却下されることが多いので、この脚本がいろいろな前例になるようにしたと語っています。そして「誤った部分があれば訂正していけばいい」と語ります。何か疑問に思ったとき寅子が「はて？」とつぶやくと一緒に考えている自分がいました。(樋口みな子)

倍賞千恵子トーク『わたしと映画と北海道』は 550 人を超える観客でいっぱいになりました

5月10日(土) 共済ホールで開催された倍賞千恵子さんも主演された「幸福の黄色いハンカチ」上映会と倍賞さんのトークは多くの観客を魅了しました。今回は企画したシネマー馬力の岡村雄二さんに書いていただきました。(編集者)

倍賞さんは、北海道を舞台に多くの作品に出演して道民を演じてこられました。現在 83 歳、今も新しい作品に取り組んで、映画俳優として大活躍です。倍賞さんに、北海道、山田洋次監督、寅さん、渥美清さんのお話を聴きたくて企画しました。

映画ファンとして、楽しい作品と感動の時間を過ごしたお礼と、永年の多くの映画出演の活躍を北海道の映画ファンと共に祝いしたいと思います。

『家族』1970 年

大阪万博の太陽塔からエキスポランドに向かう橋の所で帽子の売店で仕事をしていた、8月の暑い日に撮影していたとは、映画を見て初めて気がついた。別海のラストシーン、草原の青空が、冬を乗り越え春を迎えた喜びが溢れている。このシーンを能天気と批判された。しかし、厳しい冬を乗り越えて春を迎えた時、「今年も生き抜いた」と喜びがいっぱいです。北海道民の全てが感じる暖かな春です。

『同胞』1975 年

1975 年 10 月の連休、夕張でラストシーンの撮影に映サの仲間と出掛けていった。初代の夕張駅の前の丘の上、倍賞さんが公演の主催者と別れて丘を下るシーン、女性がバケツで石炭を運ぶところに当時の映画サークルの仲間が出演、後の仲間は炭住の煙突から煙を出す、ドラム缶で焚き火、丘を降ったところの道路の家の陰で通行人をストップ。しかし、失敗。

ラストシーンの撮影が終了後、有張駅前で、倍賞さん、山田監督、撮影の高羽さんらと映サ仲間とカメラに収まった。良い思い出の映画。

シナリオを読んで行くと行間の映像が見えてくる、松尾村の青年団の会議それは映画サークルの会議と全く同じで盛り上がらない、終わった後の飲み会は元気いっぱい。描かれている事が映画サークルの日常、まさに『同胞 (はらから)』は映画サークルを描いたサークル活動の教科書。

『幸福の黄色いハンカチ』1977年

有珠山が爆発した時、札幌市内も灰が積もった。その日、夕張のロケ現場に出かけた。



国鉄の踏切の所に生協があった、倍賞さんは生協のレジ打ちが仕事。現場近くで高倉健さんとすれ違った、なんにも言えず頭を下げただけ。夕方、撮影が終わった後、旅館を訪ね山田監督に少し時間をくださいとお願いした。10分の約束が30分以上、部屋に上がり込んだ。なにを話したか？記憶にない！

シナリオを基に、ラストのシーンを夕張の街を走った、シナリオ通り炭住の横のポールに黄色いハンカチが旗めいていた。

『遙かなる山の呼び声』1980年

松竹大船の撮影所を訪問。大きなスタジオの中にセットが組まれている。倍賞さんと健さんが家の部屋の中での撮影。そのスタジオで1人の子供が地べたに絵を描いている、初出演の吉岡秀隆くん。

それから何度か、撮影所を訪ねたが行く度に様変わりして、そして撮影所は無くなった。

(シネマ 一馬力 岡村 雄二)



映画の紹介

カトリック、ユダヤ人、ホロコースト、スターリン主義、ジャズというポーランドの特性が見事にマッチ

『イーダ』 パヴェウ・パヴリコフスキ監督

1962年のポーランド。孤児として修道院で育てられた18歳のアンナは、院長から修道女の誓いを立てる前に唯一の肉親である叔母ヴァンダに会うように言われる。ヴァンダを訪ねたアンナは、自分の本名がイーダでユダヤ人であること、亡き両親はどこに埋められているのか分からないことを知らされる。

イーダは出自の秘密を知るためヴァンダと旅に出て、戦時中に両親を匿っていたシモンを訪ねる。ヴァンダは幼い息子を姉でイーダの母であるルージャに預けたが、一家とともに殺されていた。イーダのもとをシモンの息子フェリクスが訪れる。彼は古い先短い父を安らかに眠らせてくれるならルージャらを埋めた場所を教えたと約束し、埋葬場所を掘り起こす。そして生まれたばかりでユダヤ人とは思えないイーダを神父に託したと告白する。イーダとヴァンダは遺骨を故郷の墓に再埋葬する。

イーダは修道女として生きていかなければならないはずだが、ヴァンダは…。イーダは旅の途中で知り合ったサクソ奏者の青年リスと再会し2人は結ばれる。リスはイーダに結婚を申し込むが…。

第二次大戦中には少数ながらイエドヴァブネ事件(1941)などポーランド人によるユダヤ人虐殺事件があり、スターリン時代末期には自国民を厳しく罰したポーランド女性検察官などがいた。本作はそうした負の歴史に目をつぶら

ず公平に描いた点に加え、それとマグダラのマリアを重ね合わせたストーリーが素晴らしい。被害者として描かれた日本映画には優れた作品が多いが、加害者としての視点が不十分だと批判が多い。これに対し欧州では、近年**複眼的視点**(または**昆虫の眼**)と呼ばれる多視点的作品の製作例が増えていることは好ましく、邦画にも同様な視点が望まれるところである。

モノクロ/スタンダードの洗練された構図と素晴らしい撮影、詩的な映像の水準の高さは息をのむほどだ。台詞や俳優の演技・カメラの動きはミニマルで無駄がない。カトリック、ユダヤ人、ホロコースト、スターリン主義、ジャズというポーランドの特性が見事にマッチした作品といえる。

本作は音楽設計も素晴らしい。スターリン主義政権後のポーランドではジャズが流行し、特にコルトレーンの名曲「ナイマ」は愛の告白に聞こえてくる。バッハのコラールはイーダの揺れる心を象徴していた。

イーダ役のチュシェブホフスカは演技初経験とは思えぬ見事な演技を見せた。これは修道院以外知らない少女が旅を通して成長してゆく教養小説でもある。

(リュミエール池)



迷いの中にこそ創造性や信仰の力が宿る

『教皇選挙』 エドワード・ベルガー監督

フランシスコ教皇が4月に亡くなり、「教皇選挙」が注目を集めました。現実と同じような状況から本作は描かれます。

ローマ教皇が急死したことで、新たな教皇を決める選挙「コンクラーベ」が行われ、その内幕を描く。ロバート・ハリスの2016年の小説「CONCLAVE」が原作で、ストーリー自体はフィクションです。ローマ教皇の死去を受け、新教皇を決める教皇選挙「コンクラーベ」が行われる。

バチカンのシステリーナ礼拝堂には、世界中から100人を超える新教皇の候補者たちが続々と集まります。主人公はそれを執り仕切ることになる、ローレンス枢機卿(レイフ・ファインズ)です。コンクラーベで教皇が選ばれるには、投票総数の3分の2以上の得票が必要なため、映画では何度も投票が繰り返され、候補者たちも次第に疲弊し、心乱されていきます。

有力候補者にスキャンダルが見つかったり、不正疑惑が出てきたり、外の街ではテロが起きていたり、気づけば、ミステリーとサスペンスが繰り返されていて、陪審員ドラマの名作『十二人の怒れる男』を彷彿とさせるスリリングな密室劇が展開されます。教皇選挙をめぐる、熱くなり、過激な言葉を発する枢機卿にローレンスは「選挙をしているんだぞ。戦争をしているわけじゃない」と言ったところ、「戦争をしているんだ!」と、怒鳴り返され、息を吞まざる得ない強烈なシーンもありました。改革派と保守派の対立に、世界の流れである多様性、そしてLGBTQの問題に悩む構図も見えました。こんなシーンもありました。普段は目に見えにくいシスターたちは影で支えています。シスター・アグネス(イザベラ・ロッセリーニ)が、ホモソ



ーシャルな男性
集団の前でスキ
ャンダルを明か
し糾弾します。
私は頼もしい！
と心の中で拍手
していました。

ローレンス枢機卿はリベラルな人ですが、教会に迷いが生じ、教会からの離脱を考えます。でも「あなたを一番信頼している」とある枢機卿から告げられると、教皇になれるかもと迷うのです。一番驚いたのは、教皇選挙で枢機卿ローレンスが自らに投票しようとした際、天井近くの窓が突然割れて光が差し込む場面です。

ネタバレになりますが純粋な信念を持つ若いベニテス（カルロス・ディエス）が教皇になり、ローレンスは、信仰を取り戻したのかもしれませんが。これからも迷いながら教会の変化を見守り続けるのでしょう。

この作品が語りかけるのは「新しい道は“確信”にはない」ということ。世の中では何かを断定し、手っ取り早く安定を得ようとする圧力が強まる一方、“迷い”や“疑い”は弱さの象徴と見なされがちです。でも映画はまさにその迷いの中にこそ本質的な“創造性”や“信仰の力”が宿るのではないかと静かに説くのです。

5月11日の小野幌教会でのミサで、この作品を観た松村繁彦神父さまもそこに注目されていました。そこには“神の不可思議な導き”への畏敬が満ちています。（樋口みな子）

差別しているものはいったい誰ですか

『そして、アイヌ』 大宮浩一監督

JR大久保駅近くにあるアイヌ料理店「ハルコロ」店主で、アイヌ文化アドバイザーの宇佐照代さんを中心に、アイヌのみならず、在日コリアン、被差別部落といった今なお根強い差別や偏見の問題、そして世代などを飛び越え引き継がれていく大切な文化や想いを映し出しました。より多様になるであろうこれからの未来のためのヒントが詰まった作品です。

宇佐さんの生い立ちから、自らのルーツであるアイヌに「目覚め」て、その後、過去に発掘・収集されたアイヌの先祖たちの遺骨の返還を求める活動に取り組む姿などが描き出されている。

ところどころに入る、在日コリアンの黄秀彦さん、写真家の宇井真紀子さん、評論家の太田昌国さん、部落出身者でカムイノミ祭司・縄文造形作家の平田篤史さん、美術作家の奈良美智さんらの含蓄ある言葉が響きます。

宇佐さんを軸に宇佐さんの母、祖母、曾祖母、娘と5世代のアイヌの女たちが登場する。宇佐さんは父母の離婚により、10歳で東京にやってきた。5人の兄弟姉妹をひとり育て上げた母タミエさん。択捉（エトロフ）島出身の祖母。北海道大学



の資料室で出会った曾祖母タマさんの歌。今、宇佐さんの店を手伝いながら、アイヌの歌や楽器などの文化を受け継ごうとする娘レイノさん。女たちがつなぐ文化の灯火のリレー。宇佐さんの思いが映像からしっかりと伝わってきました。

宇佐さんは、祖母の臨終の際、祖母から「民族の誇りを持って生きていくと発表してください」と言われ、病室で宣言。宇佐さんの凛とした強さは、女たちがつないできた民族の誇りを受け継ぐという大きな使命がそうさせるものかもしれない。

マウリ族の踊り、韓国の民族舞踊などが力強い。宇佐さんは「アイヌという言葉は人間という意味です。アイヌは自分たちを他の民族と区別していない。人間だと言っているんです」という。区別し、差別しているものは、いったい誰なのだろう。自分の胸に聞いてほしい。（樋口みな子）

歴史的な大事件に翻弄された普通に生きた人々

『1980 僕たちの光州事件』カン・スンヨン監督

1980年5月。人情味あふれる町の人たちに囲まれ、中華料理店をオープンさせた一家。ごく普通に幸せな未来を夢見ただけの人々が光州事件という大きな悲劇に巻き込まれていく…。

朴正熙大統領の暗殺事件に焦点を当てた『KCIA 南山の部長たち』、その直後に起きた全斗煥によるクーデター『ソウルの春』、そして『タクシー運転手 約束は海を越えて』ではその全斗煥の軍事政権が引き起こした光州事件。すべては同一線上の歴史です。

『タクシー運転手』を見たときにお隣の国のほぼ現代のことをほとんど知らずにいて愕然としたこと、また昨年12月の尹大統領による非常戒厳発令からのただならぬ事態もあって、この光州事件を市民の目線で描いた『1980 僕たちの光州事件』を観ました。

1980年。韓国全土に非常戒厳令が出された5月17日、光州で暮らすチョルス少年の祖父は念願だった中華料理店「和平飯店」を開業します。

出産間近な母、その妹、結婚を控えた父の弟。家族で切り盛りしていますがそ



こに父親の姿はなく、チョルスは将来この「中国メシの店」を継ぐことを強いられています。ただ大好きな幼なじみのヨンヒとの未来を夢見ているチョルス。日ごとに映し出される事件の経過と、この一家の生活とのコントラスト。途中までは〈ドア1枚向こう〉のできごとだったのが、ある日突然破られていく。チョルス少年にとって家族ぐるみのつきあいのヨンヒや、結婚目前の父方の叔父、さらには青春謳歌中の母方の叔母も一緒にいるという、3世代+αのコミュニティを物語の中心にしたことで、光州事件に巻き込まれた人々を友だちや親せきのような自分事を感じられる作品。（樋口みな子）

5月1日メーデー会場で嬉しかった出来事

札幌中島公園でのメーデーに、手書きでダンボールに「祝 50 周年 ベトナム人民勝利」と書き小さな花で飾り、我が家玄関にあった歩行用杖に貼り付け参加しました。

50 年前の 1975 年 5 月 1 日、前日のサイゴン解放（「陥落」ではありません）のニュースをラジオで聞き、大通公園でのメーデーに「ベトナム勝利！」と書いたプラカードを持ち「人類は進歩する」「正義は勝つ」と高揚した気持ちで参加したことを思い出します。

今年の会場でベトナムに触れたプラカードは他に見当たらず、私のボードについて関心を持って話しかけてくる人もなく、やや寂しく感じながらデモ行進に歩き始めました。

中島公園出口の信号で待っていると、若い女性数人がこちらを向いて写真を何枚か撮っています。「まさか私の写真を？ そんなわけないし！」と思ってふと「このボードに注目しているのでは？」と、よく見てみるとどうもアジア系の女性。手を振ってみると手を振って返してくれます。



私は列から離れ近寄り、ボードを指しながら「ベトナムからですか？」に聞いてみると、言葉は通じているのか不明ながらその様な反応。私は「私のハネムーン（1959 年）はベトナムでした」などと話すと、彼女たちから「一緒に写真を撮ってもらえませんか」と（ゼ

スチャーで）頼まれ写真を。もっと話したかったのですが、デモ行進が出発しているので、残念ながらすぐお別れ。若い女性に囲まれ嬉しい気持ちで撮られた 1 枚です。

前の日遅くまで準備した甲斐があったメーデーとなりました。国際連帯に少しなったかも？

（写真の転載はご遠慮ください）（札幌市・福原正和）

購読料と寄付をありがとうございます（敬称略）3.19～5.11
福原正和 高橋雋 室崎和佳子 作田信子 仲俣善雄
吉田雅子 沼崎勝洋 佐々木睦子 増子捷二 波留美子
合計 28,000 円は印刷と送料に使わせていただきます。

購読料の振り込みは、
ゆうちょ銀行（記号）19710 番号 02218911
他銀行からは（店名）978 普通預金（口座番号）0221891
樋口みな子宛 お願いします。

カオジロガビチョウを発見

前橋の大利根団地内を散歩中に、かん高い、きれいな声でムクドリのような鳥が何羽も木の中でさえずっているのに気が付きました。見たこともない鳥でした。図鑑で調べても、出てきません。そこで、日本野鳥の会に問い合わせると、

<https://ebird.org/species/whblau1>

「写真の鳥はカオジロガビチョウです。日本鳥類目録では外来種で、群馬県では繁殖もしているようです」ということでした。ガビチョウという鳥は、ベトナム戦争当時、アメリカ兵が持ち込んだともいわれ、今では、日本各地で見られるようです。それと似ているから「カオジロ」と名付けたのでしょうか。「群馬県では繁殖している」ということは、他の県では繁殖していない珍しい鳥、ということでしょうか。うれしい「大」発見でした。

（群馬県前橋市 堀泰雄）



あとがき

「時代は変わる」と強く思うこの頃。トランプ大統領になって、アメリカ最優先の政策に世界中の人々が混乱しています。物価高も異常です。1万円の価値が小さくなりました。パソコンが古くなって買い換えました。それに伴い古い編集ソフトが使えなくなり、ワードを覚えるのに悪戦苦闘しています。まだ入会して間もない北海道ポーランド文化協会の代表であり、会報の編集もされている安藤厚さんに変にお世話になりました。245 号は安藤さんの助力がなければ完成しませんでした。購読料振込のゆうちょ口座も利用できなくなりました。どうぞ私のゆうちょ銀行の口座での振り込みにご協力ください。脱原発や平和集会にはできるだけ参加したいです。どうぞお誘いください。（みな子）

（写真）4月28日 突哨山の森で走るエゾリス

5月4日 札幌中島公園でサクラを楽しむ幼稚園の子どもたち

（撮影：樋口みな子）

